

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:59.

父親にとって過ごしやすいNICUの環境

高橋 美穂

父親にとって過ごしやすいNICUの環境

高橋美穂

旭川医科大学病院周産母子センター NICU ナースステーション

【目的】父親にとって過ごしやすいNICUの環境について明らかにする。

【方法】2016年10月～12月の期間で、A病院NICUに入院した子どもの父親7名の診療記録から父親のNICUの環境、看護師との関わりに関する言動を抽出し、コード化、カテゴリー化した。

【結果】NICUの環境に対して、23のコード、10のサブカテゴリー、4のカテゴリーを得た。以下にカテゴリーを《 》、サブカテゴリーを〔 〕で表す。父親は《女性看護師のみの環境》に〔男性看護師がいることへの期待〕、〔女性看護師のみによる疎外感〕、〔裸になることへの羞恥心〕、〔女性看護師のみの環境に違和感がない〕と感じていた。《ワンフロアという環境》に対しては〔スクリーンへの安心〕、〔スクリーンへの不安〕、〔目の行き届く環境〕の思いがあった。《子どもの環境》には〔機械が多く緊張する〕があった。《看護師の対応》は〔看護師が側にいることへの安心感〕、〔看護師の多忙な様子〕を感じていた。

【考察】父親は女性看護師のみの環境に対して、居心地の悪さや男性看護師がいることへの期待があるといえる。そのため、男性医師や他の患者の父親との交流機会を設けることで、疎

外感が軽減し居心地の悪さを解消することができるのではないかと考える。

NICUのワンフロアの環境に対しては、家族のプライベートな空間を望んでいるといえる。ワンフロアであることは医療スタッフや、他の患者家族とも物理的な距離感が近いという特徴がある。そのため、スクリーンを使用することでこれらの距離の近さから解放され、安心できる空間を作ることができる。しかし、スクリーンで囲うことで子どもに何かあったときに困るという不安もあり、不安なく子どもと触れ合えるようにする必要がある。

子どもの環境に対しては、機械が多く子どもに触れるのが怖いという思いがあるが、看護師の声かけによって安心して触ることができる。そのため、父親は子どもの環境に対して恐怖心を感じるが、看護師の関わりによって安心した環境へと変化させることが必要である。

父親は子どもの状態に不安や恐怖心を抱いていることが多いため、安心して子どもと触れ合えるような環境を整え、サポートしていくことが必要である。NICUの物理的な環境を変えることは難しいが、工夫次第で父親が過ごしやすいNICUの環境へと変えることはできると考える。